

English Garden 第86話

"To lay the foundation for a real partnership between Japan and America"

Edwin O. Reischauer

「日米間に真のパートナーシップを築く基礎を作ること」 ライシャワー

これは、1961年から66年まで駐日アメリカ大使を勤めたエドウィン・O・ライシャワー(1910- 1990)が、自分の使命として、就任以来「テーマソングのように」繰り返し使っていた言葉です。

ライシャワー大使が日本に赴任したのは、2001年の今年からちょうど40年前のことです。日本はまだ敗戦の痛手から立ち直れず、アメリカとの関係は「イコール・パートナー」と呼ぶには程遠いころでした。しかも、前年はいわゆる60年安保闘争の嵐が吹き荒れ、日本の国内はその余波でまだ騒然としていました。

当時ハーバード大学の教授だったライシャワー氏は、東アジアの研究者としてアメリカ政府の中でも大きな存在でした。戦後の日本の政治と日米関係にとって最大の危機と言われたこの時期に、駐日大使という重要なポストに氏を起用したのは、大統領に選出されたばかりのジョン・F・ケネディでした。日本で生まれ育った親日家で日本人の奥さんを持つライシャワー氏は、外交には素人でも、この上ない適任と思われたのでしょうか。実際に氏は前年の8月に来日し、安保騒動の問題点を分析して論文を発表しています。

しかし、そうした立場のゆえに、氏はかえって両国のあいだで板挟みになるのではないかと悩みました。でも、二つの国をよく知り、愛していればこそ引き受けるべきだと決心しました。夫人も初めは反対でしたが、ケネディ大統領の就任演説の有名な言葉「国のために自分が何をなすうかを問いたまえ」(English Garden7参照)を思い出して決心したということです。

ライシャワー夫妻は多くの日本人から熱狂的な歓迎を受け、その期待に応えて多くの人との対話を試み、心血を注いで相互理解に尽くして「イコール・パートナーシップ」の基礎を築きました。

私は最近ライシャワー氏の自伝 "My Life Between Japan and America" (1986年刊、日本語版『ライシャワー自伝』)を読み、文字通り一生を日米の架け橋となるために捧げた生涯に深い感銘を受けました。そこでさらに大使の著作 "Japan Past and Present" (日本の過去と現在) 『ライシャワー大使日録』や、ハル夫人の2冊の自伝『私の歩んだ道』『絹と武士』も合わせ読んで、お二人の運命的な生い立ちと出会い、まさに天の配剤であったとの感を深くしました。数回にわたって、"My Life Between Japan and America" を中心に、夫妻の足跡を追うことにいたします。

エドウィン・O・ライシャワーは、1910年(明治43年)東京に生まれました。

父のオーガスト・カール・ライシャワーはキリスト教の宣教師で、明治学院で神学と英語を教えていました。彼は日本人の信仰を理解するために仏教を学び、1917年に "Studies in Japanese Buddhism(日本仏教の研究)" を著わしました。これはその後仏教に関する古典となり、オーガストはニューヨーク大学から神学博士号を授けられました。

また、1918年には新渡戸稲造などの協力で、東京女子大学(Tokyo Women's Christian College)を設立しました。

エドウィンは兄のロバートと妹のフェリシアの三人きょうだいでした。フェリシアは、母が妊娠中に風疹を患ったため、生まれつき耳が不自由でした。それで母は聾教育に関心を持ち、娘をアメリカの学校に入れたときに教育法を学んで帰り、父と協力して1920年、口話法(口の形で音を読み取る)で教える日本で最初の聾啞学校を作りました。

エドウィンは両親の事業を継ごうとは思いませんでしたが、深い信仰を持つ両親を常に尊敬し、その事業を誇りとしていました。一家は明治学院の構内に住み、つき合うのも外交官や日本の上流家庭の人々などが多かったのですが、生活はきわめて質素でした。これは耳の不自由なフェリシアの教育や将来のために蓄える必要があったためでもあります。

エドウィンは両親と共に日本とアメリカのあいだを往復しながら、主に日本のアメリカン・スクールで教育を受けました。優秀だった兄ロバートの影がいつも心にのしかかっていたらしく、兄が卒業してからは実にのびのびと過ごしたようです。卒業時には多くのスポーツクラブのキャプテンを勤め、王様のような存在となりました。これは後の話になりますが、ちょうどそのころ小学科に在籍していたハル夫人は、全校生のアイドルだった「エド」をよくおぼえていたそうです。

(次回に続く)

参考文献:

"My Life Between Japan and America" Edwin O. Reischauer, Harper & Row, Publishers, New York, 1986

"Japan Past and Present" Edwin O. Reischauer, Charles E. Tuttle Co.:Publishers, 1964

『ライシャワー自伝』エドウィン・O・ライシャワー著、徳岡孝夫訳、文芸春秋、1987年

『ライシャワー大使日録』エドウィン・O・ライシャワー、ハル・ライシャワー著、講談社、1995年

『私の歩んだ道』ハル・ライシャワー著、主婦の友社、1966年(インタビュー記録)

『絹と武士』ハル・松方・ライシャワー著、広中和歌子訳、文芸春秋、1987年